

第5学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『食料生産を支える人々 ～わたしたちの暮らしと「博多あまおう」づくり～』

(教科書：『小学社会 5 上』 p. 90～95／学習指導要領：内容（2）ア、ウ）

2. 小単元の目標

「博多あまおう（いちご）」を生産し出荷する農家の仕事の様子について調べ、消費者のニーズに応え、新鮮で良質なものを生産・出荷するために、多くの工夫や努力がなされていることを捉える。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
「博多あまおう」を生産する農家の人の取り組みに関心をもち、それらを意欲的に調べようとする。 国民の生活を支えるこれからの農業について、すすんで考えようとしている。	「博多あまおう」の生産・流通にかかわる農家の人の取り組みから学習計画を考え、表現している。 農家の人の思いや願いを考えたり、これからの農業のあり方について判断したりしたことを言葉や図、イラストなどで適切に表現している。	「博多あまおう」にかかわる消費者や生産者の願いなどについての確に調査したり、地図や統計などの各種の基礎的資料やインターネットを活用したりして、必要な情報を集めて読み取り、ノートや発表資料にまとめている。	消費者のニーズに応えるために、新鮮で良質な農産物を生産し出荷する農業が行われていること、価格や費用に関する農家の様々な工夫や努力によって農産物の生産が行われていることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本学級の児童は、前小単元「わたしたちの暮らしと米づくり」の学習において、農業が直面している問題や消費者のニーズを捉え、これからの農業に対する関心が高まっている。さらに、教室に掲示しているいちごの品種と主な産地の地図を見ながら、「いろいろな種類があるけど、やっぱり博多あまおうが有名だよ」と話すなど、米以外の農産物にも興味をもっている姿が見られる。

また、観察・資料活用の技能については、各自が資料を収集し、問題の解決に必要な言葉を読み取り、ノートにまとめるなどの能力が徐々に身につけてきている。思考力・判断力・表現力にかかわる面では、社会的な事実と事実を結びつけて、どのような関係があるのかを考える力が高まりつつある。一方、自分の考えを説明することに苦手意識をもっている児童が多い。また、社会的事象を新たな視点から捉えたり、人物の行為の背景に迫ったりしながら、社会的事象の意味を考え、判断する力は十分とは言えない。

(2) 教材について

本小単元では、国民の食生活とかかわりの深い果物づくりの全国的事例として、「博多あまおう」を取り上げる。福岡県は、いちごの生産量（2014年）では全国第2位を誇り、中でも「博多あまおう」は福岡県の販売促進の努力の結果、全国的に知られ、新鮮で良質なブランドとして確立した農産物の一つと言える。近年では、国内のみならず海外でも需要が伸びている果物である。しかし、誕生から10年以上が経ち、大きく、美味しいいちごの品種が他にも増え、味だけで言えば「博多あまおう」に勝る品種も登場してきている。このことで、ブランド化はもとより、どこに付加価値をつけて生産・販売をしていくかが、いちご農家の課題となってきた。これらの課題に向き合う生産者の努力や工夫について調べることは、これからの農業を考えていくうえで意義深いと考える。

(3) 指導上の工夫・留意点

本小単元では、まず、いちごづくりがさかんな地域として、福岡県南部で行われている一般的な「博多あまおう」づくりの生産の工夫や努力について調べるようにする。さらに、「博多あまおう」の新しい生産・販売に取り組むAさんの仕事を具体的に調べる。新鮮さと品質にこだわりをもって「博多あまおう」づくりを進めるAさんの取り組みについて考えていくことで、人の行為の背景に迫りながら、社会的事象の意味を考え、判断する力を高めていくことが期待できる。その際、児童が友達と相互にかかわりながら、消費者に本当にいいものを届けたいというAさんの思いや願いを捉えることができるように、生産から出荷におけるAさんのこだわりに着目させ、「Aさんはどうしてここまでするのか」を考える活動に焦点化する。

また、児童自身が情報を選択しながら調べ、まとめるといった情報処理能力を高めることができるように、タブレット端末等を活用し、情報を引き出しながら考えをつくったり、伝え合ったりする場を設定した。

5. 小単元の指導計画（総時数8時間）

時	ねらい	○学習活動 ・ 内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ)	福岡ブランド「博多あまおう」づくりへの関心を高め、その生産の様子について調べる問題を見いだす。	○全国野菜・果物マップや農産物別の生産量から、主な野菜や果物の生産がさかんな地域について話し合う。 ・ たけのこの生産量…福岡県1位 ・ いちごの生産量…福岡県2位 ○「博多あまおう」の実物と産地マップから、産地の特色をつかむ。 ・ 「博多あまおう」は、真っ赤で大きい。 ・ 県の南側の平地で多く生産されている。 ・ 生産されたものはどこへ行くのだろう。 「博多あまおう」は、どのようにしてつくられているのだろう。	◎全国野菜・果物マップ ◎福岡県農産物マップ及び「博多あまおう」の産地マップ ◇「博多あまおう」づくりへの問題意識を高めることができるように、農産物の主な産地や「博多あまおう」づくりのさかんな地域について話し合う場を設定する。 ◆「どのようにしてつくられているのだろう」という問題を見いだしている。 (思・判・表／発言)

② ③ (調べる)	一般的な「博多あまおう」づくりに ついて調べる。	「博多あまおう」づくりがさかんな地域 では、どのように「博多あまおう」をつ くっているのだろう。 ○「博多あまおう」の農事暦をもとに、生 産がどのように行われているか調べる。 ・ビニールハウスを利用している。 ・品種改良を重ねてやっとできあがった。	◎「博多あまおう」の農事暦 ◎福岡県地図と「博多あまおう」 づくりのさかんな地域の マップ ◇一般的な「博多あまおう」づ くりについて、自然環境等と のかかわりや、生産の様子を 捉えることができるように、 「博多あまおう」づくりのさ かんな地域の様子や農事暦 を結びつけて調べる場を設 定する。 ◆一般的な「博多あまおう」づ くりの工夫や努力について 調べたことをまとめている。 (技／ノート)
④ ⑤ (調べる)	Aさんの「博多あ まおう」づくりに ついて調べる。	Aさんは、どのように「博多あまおう」 づくりをしているのだろう。 ○一般的な「博多あまおう」とAさんの「博 多あまおう」の価格を比べる。 ・Aさんの「博多あまおう」は、普通の「博 多あまおう」の5倍ぐらい高い。 ○Aさんの「博多あまおう」づくりにつ いて、タブレット端末等を利用して調べ る。 ・水づくりからこだわりをもっている。 ○調べたことを、グループで新聞にまとめ て、発表し合う。 ・普通の「博多あまおう」づくりよりも、 工夫しているところが多い。	◎Aさんのインタビュー映像 (生産・出荷について、思いや 願いについてなど) ◇Aさんの「博多あまおう」づ くりへの関心を高め、「普通 のものとどんな違いがある のか」という問いを見いだす ことができるように、価格を 提示する。 ◆Aさんの「博多あまおう」づ くりに関心をもち、新たな問 いを見いだし、追究してい る。 (関・意・態／ノート)

⑥ (考え表現する) 【本時】	Aさんの「博多あまおう」づくりへの思いや願いを考え表現する。	Aさんは、どのようなことにこだわりを もって「博多あまおう」をつくっている のだろう。 ○Aさんの生産・出荷の工夫や努力を整理し、どうしてそこまでこだわって生産しているのかを話し合う。 ・本当に良質なものを届けたい ・新鮮なものをはやく届けたい ・どこにも負けない味で勝負する ・よいものをつくるために水が大事 など	◇Aさんの生産・出荷におけるこだわりをもとに、Aさんの思いや願いを考えることができるように、タブレット端末を活用した学び合いの場を設定する。 ◆消費者に新鮮で良質なものを届けたいというAさんの「博多あまおう」づくりへの思いや願いを考え表現している。 (思・判・表／発言)
⑦ ⑧ (生かす)	学習したことをもとに、他の野菜や果物の生産についても調べ、まとめる。	日本の他の野菜や果物の生産では、どの ようなことにこだわって生産している のだろう。 ○自分が追究したい農産物を選択し、タブレット端末等を活用して調べる。 ・宮崎県のマンゴーづくり ・長野県のキャベツづくり など ○調べたこととはがき新聞にまとめる。 ○各自で調べたことを持ち寄り、日本の食料生産について話し合う。 ・日本の農家は、自分で納得がいくものを生産するために、様々なこだわりをもってつくっている。	◎日本の食料生産マップ ◎各種ウェブサイト ◇これからの農業のあり方を考えることができるように、これまで学習した稲作と「博多あまおう」づくりをつなげて考える活動を設定する。 ◆農家の様々な工夫や努力によって農産物の生産が行われていることを理解している。 (知・理／ノート)

6. 本時の指導（第6時）

(1) 本時のねらい

研究を重ねながらの生産や、生産者の願いに応える販売方法など、Aさんの数々のこだわりを確かめ、「どうしてそこまでするのか」と立ち止まって考え、Aさんがこうした取り組みにこだわる理由を話し合う活動を通して、消費者に新鮮で良質なものを届けたいというAさんの「博多あまおう」づくりへの思いや願いを捉えることができるようにする。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
15	○本時の学習のめあてをつかみ、追究の見通しをもつ。 T：(拡大提示装置でパッケージを拡大) Aさんの「博多あまおう」づくりは、今まで調べた「博多あまおう」づくりと、どこが違うのでしょうか。 C：「こだわりの一品」と書いてあります。 C：班でまとめた新聞に、Aさんがこだわっているところを書いてあると思います。 C：Aさんは、土づくりだけではなく、水づくりからやっていました。また、どのようにすればおいしい「博多あまおう」ができるかを自分で研究していました。Aさんのいちごのパッケージに書かれた「こだわり」というのは、そういうところではないかと思います。 Aさんは、どのようなことにこだわりをもって「博多あまおう」をつくっているのだろう。 T：どうやって追究していきますか。 C：グループで調べたことを出し合うとよいと思います。 C：集めた資料やタブレットを使って考えるとよいです。 C：こだわりが何かを出し合っていけば、Aさんの「博多あまおう」に対する思いがわかってくると思うので、それがわかったら、この時間の学習は成功だと思います。	◎Aさんがつくる「博多あまおう」のパッケージ ◎各グループで前時にまとめた新聞 ◇本時のめあてを明確にもつことができるように、これまでの学習の足跡を確認する。また、本時までに見いだした各自の考えを交流する。 ◇追究の見通しをもつことができるように、めあての設定後、何をどのような方法で追究するか、共通理解を図る。
25	○Aさんのこだわりを考える。 T：Aさんの仕事のどこにこだわりを感じましたか。 C：ただいちごをつくるだけなら、土耕栽培か高設栽培のどちらかでいいのに、大変だけど二つの栽培を同時にやっています。 C：Aさんは、朝出荷するのではなく、夕方出荷して、次の日には新鮮なうちに手元に届くようにしていました。 C：1班の新聞に「3割は卸し、3割は個人、3割は加工だ」と書いてあります。 C：このAさんの広告に、「みなさまの笑顔に貢献できるいちご農園を目ざしています」と書いてあるから、Aさんが納得したいちごだけを出して、みんなの笑顔が見たい、というこだわりがあると思います。 C：インターネットで「Aさん家の博多あまおう」を調べ	◎Aさんの「博多あまおう」づくりの映像 ◎タブレット端末 ◇Aさんの生産から出荷のこだわりを資料と結びつけて考えることができるように、Aさんの生産から出荷までの流れを整理しながら考える場を設定する。 ◇Aさんのこだわりについて、多様性を引き出しながら具体的に考えることができるように、タブレット端末を活用して情報を引き出しながら、それらをもと

	てみると、水道水を使わず、雨水をプールのようなところにためて、流れをつくって腐らないようにし、栄養を加えてつくっています。 ○Aさんがなぜここまでこだわっているのかについて話し合う。 T：(子どもから出た、Aさんのこだわりを確認してから) どうして、ここまでこだわるのでしょうか。みんなが調べた、生産した「博多あまおう」の3割・3割・3割の残りの1割が、昨日から気になっていましたね。Aさんに聞いてみたので、今から映像を流します。(映像を視聴させる) C：海外への出荷にも挑戦しているみたいです。 C：「お客様の信頼を高める」と映像にもあったから、日本や世界の、人と人との関係を深めていきたいのだと思います。 C：Aさんが水づくりに力を入れたり、研究しながら生産したりするのは、本当に美味しい「博多あまおう」をつくりたいからです。 C：「博多あまおう」を新鮮なまま届けたいから、出荷の方法も工夫しているのだと思います。 C：Aさんは、本当に美味しいものをできるだけ美味しい状態で消費者に届けたいという思いをもっているのだと思います。 C：値段が高くて、新鮮で味のよいものを消費者に食べてもらいたいという気持ちがあると思います。	にグループで話し合う場を設定する。 ◎Aさんへのインタビュー映像 ◇自分の考えを明確にするとともに、Aさんの多様なこだわりを可視化することができるように、農事暦の中でAさんのこだわりが存在すると思うところにマグネットを貼る活動を行う。 ◇Aさんの「博多あまおう」づくりへの思いや願いを捉えることができるように、「常に1割は挑戦する」というAさんの言葉、新商品の開発や海外への出荷を試みている姿に触れさせ、どうしてここまでするのかについて話し合う活動を設定する。 ◆Aさんの「博多あまおう」づくりへの思いや願いについて考え表現している。 (思・判・表／発言)
5	○本時の学習をふり返る。 T：国内の他の生産者の方も、Aさんのようなこだわりをもっているのでしょうか。 C：きっとこだわりをもっていると思います。もしかしたら、別のこだわりもあるかもしれません。 C：日本の他の野菜や果物づくりに関わる人についても、調べてみたいです。 C：わたしは、長野県の野辺山の高原野菜づくりについて調べてみたいです。	◇次時の学習に対する問いを見いだすことができるように、日本国内の生産者のこだわりにより視野を広げる発問を行う。